



人と共に歩む YMCA



大阪YMCA
高齢者福祉事業
総合施設長
すぎむら とおる
杉村 徹

2025年に団塊世代が後期高齢者となる中で、要介護となることを予防しつつ、重度要介護者への支援を充実させるというメリハリを利かせた施策が進められています。また、急性期医療と在宅医療、在宅介護の連携と拡充が求められています。YMCAサンホームは、日本の急速な高齢化の課題に対応するために、YMCAに関わる人々の熱い思いによって1997年に開設され、特別養護老人ホームや地域包括支援センター、デイサービス等の事業を行ってまいりました。

心を尽くして人に関わる

大阪YMCAの高齢者福祉事業は、「人にどこまでも寄り添うこと」を大切に、さらに前例にとられない考え方や先駆的な取り組みを進めるという風土によって、末期がんや経管栄養など福祉施設において利用が困難と考えられる場合においても、その人にとって最善を尽くす姿勢をもって対応してきました。また介護予防という観点から、いくつになってもチャレンジする心をもって意欲的に生きることを支えるため、様々な健康プログラムを展開してきました。それは地域へ広がり、健康体操クラブを立ち上げ、自治会等と協働し「ボランティアの心」を育てています。そして、車いすの方やウォーキング等のサークルの方、大学生や子どもたちが、ボランティアとしてYMCAを通して地域へ広がり、人とつながっています。

社会課題に応えた働きと、 共に歩むボランティアの創出と養成

YMCAサンホームは、これまでもボランティア体験や実習受け入れを通して、青少年と関わってきました。昨年9月からは、高齢者施設でありながら「YMCAこども広

場」をスタートさせ、毎週水曜日の夕方に地域の小学生が集まっています。また、小学校スクールカウンセラーとも協働し、多様な家庭環境にいる子どもの支援のために、「子どもたちが安心して過ごすことができる場」として「YMCAこども広場」を活用し、地域の関係機関との連携を一層進めています。

これからもYMCAは人と共に歩みます

今、YMCAはブランディングを行い、YMCAの価値を社会に向けて発信し、社会課題に応える働きを強めようとしています。YMCAサンホームでは、子どもたちとユースリーダーが高齢者と共に過ごし、シニア事業やウエルネス事業の若いスタッフとボランティアが関わっています。「人」そのものに関わる多様な働きは、YMCAだからできることであり、YMCAブランドと言えるでしょう。「すべてのものを一つにしてください」という願いの元において、「人にしてもらいたいと思うことを人にする」という聖書の言葉の通り、これからも社会の課題に応じて、与えられた「賜物」を活かして歩んでまいります。



YMCAサンホーム開設20周年を記念して開かれた祝会では、デイサービス職員によって「水戸黄門」の演技が披露され、会場が大いに盛り上がりました。

■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

地域の人がつながる場所「みんなで唄おう会」

～YMCAサンホーム支え合い強化プログラム～

YMCAサンホーム 主任 どうもと たかこ
堂本 隆子



2016年度クリスマス献金プログラムとしてスタートした「みんなで唄おう会」は、7月で5回目を迎えます。童謡や唱歌、歌謡曲を参加者みんなで唄うことを中心に、体操やミニ講座、食事交流会を交えたプログラムです。ひとりで家にこもりがちな高齢者や介護者が外出するきっかけとなることを願って始めましたが、毎回80名を超える参加者の熱気と笑い声に包まれています。今では「私も何か手伝いたい」とボランティアの方も増え、「支えあいの輪」が少しずつ広がっています。「みんなで唄う」ことがこれほど多くの人の心を動かしていることに驚くとともに、身近なところにきっかけはあるのだと気づかされました。

超少子高齢化社会は国を挙げての課題ですが、まずは地域住民自らが、相互に支えあえるきっかけと仕組みが必要です。そのためには地域の人がつながるための、開かれた「場」を提供し、一人ひとりの意欲や

力を引き出すことが、私たちYMCAの役割だと考えています。これからも「みんなで唄おう会」が人のつながりを育み、地域の方が共に支え合い歩む場となるようにと願っています。



共にいのちに寄り添う

みやほらまなぶ
YMCAサンホーム 施設長 宮原 学

特別養護老人ホームYMCAサンホームは、開設から20年を迎えました。そして、今日まで多様な人生を歩まれてきた方々と出会い、一日一日を共に歩んでまいりました。

長い人生の旅が終わりを迎える時、私たち職員は医療、介護部門や食生活創造室(厨房)が共に力を合わせ、さらにご家族と一丸となって、寄り添い、支え合い、共に過ごす時間を大切にしてきました。天に召された後のご家族の涙は、哀しみの涙に加えて、故人への「ありがとう」という感謝であることに気づきます。「他者を支えることは、実は支えられていること」だと改めて心から思うのです。

大阪YMCAは、「出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開」しています。これからも、いのちの輝く一瞬一瞬、お一人おひとりに寄り添い、支え合う方々と共に歩んでまいります。



第5回 EAYUN協議会報告

たじり たくくに
グローバル事業推進室 二室長 田尻 忠邦

5月15日から17日に、第5回東アジアYMCAアーバンネットワーク(EAYUN)協議会がシンガポールYMCAの主催で開催されました。ソウル、上海、南京、台北、台中、台南、香港中華、スリランカ同盟、マダレー、ビクトリア、メトロポリタン、シンガポール、横浜、北九州、大阪の15のYMCAから38人が参加しました。

介護予防サブコミティーからは台中YMCAと台中市の協働プログラムについて、アクアティックサブコミティーからは3月に大阪で開催されたワークショップについてなど、各YMCAからの事例や今後の計画が報告されました。

また、シンガポールYMCAとYMCAビクトリアによるユースフォーコース(高校生、大学生による提案型の社会貢献プログラム)の事例報告があり、このプログラムに対するシティバンクの助成金授与式にトニー・タン大統領を来賓として迎え、盛大に執り行われました。

大阪YMCAからは、2020年のワールドキャンプの開催を見据え、毎年国際的なイベントを企画している中で今年の11月に開催されるキャンプシンポジウム100をアピールしました。

今後、このネットワークを生かしたそれぞれのサブコミティーにおける事業展開が期待されています。



大阪YMCA 創立135年記念礼拝・Yボランティア研修会

いりえ やすお
活動推進委員 入江 保夫



6月3日に大阪YMCA創立135年記念礼拝とYボランティア研修会が開かれ、約150人が参加しました。

第一部は、日本聖公会川口基督教会の岩城聡司祭から「隣人への奉仕」をテーマに奨励をいただきました。「善きサマリア人のたとえ」から、具体的な愛の実践を行うことで隣人になり、それが愛することであるとお話されました。昨年、世界に様々な脅威が生まれている中で、YMCAは平和で公正な社会をめざす理念を高く上げて、世の光・地の

塩として働くYMCAであってほしいと結ばれ、心に染みるメッセージとなりました。

第二部は、ブランド戦略コンサルタントの村尾隆介さんから、現在全国のYMCAで推進している「ブランディング」についてお話がありました。「ブランド」になることで「営業しなくても買ってもらえる」、「全ての人をファンにする」、「ライフスタイルブランドになる」、「言葉に矛盾がないように整える」、「ブランディングは外向けではなく、内部のための運動」など、印象深いキーワードをたくさんいただき、YMCAが新しく変わろうとしていると感じさせられました。



- 「Y」に関わるブランドの定義？(まとめ)
1. お客様以上のファンをつくること
 2. 営業しなくても買ってもらえるようにする
 3. 上手なコミュニケーションのこと
 4. 対外的なこと+対内的なこと
 5. 生活に欠かせない存在にすること
- YMCAs NEED THESE!

私のYMCA体験

「したい」が見つかる場所

堺市立青少年センター スタッフ もりい くみ 森井 久瑞

堺市立青少年センターは堺市より委託を受け、大阪YMCAが運営しています。貸館サービスに加え、YMCAが主催でダンス・英会話・書道・幼児体育など約50クラスを開講し、幅広い年齢層の方が参加されています。

現在、センターでアルバイトをしている大学生がいます。彼女は小学6年生でダンスクラスに入り、10年経った今もクラスを受講しています。長年ダンスクラスに通ううちに、講師の先生にアシスタントを任せられることが増えていきました。彼女はそこで、教える楽しさはもちろん、難しさにも触れることで、「教える」ということに興味を持ったそうです。そのことがきっかけで、今は教員を目指して勉強を頑張っています。

クラスに参加することで仲間が増え、輪が広がる。そして、彼女のように「やりたいことが見つかる」。私たちスタッフは、そのような場を提供していくことを願っています。「やりたいこと」に年齢は関係ありません。これから「何か始めたいな」、そう思ってセンターへ足を運んでくださる方の気持ちに寄り添える働きをしたいと思っています。



第23回 大阪YMCAチャリティーラン2017 開催のお知らせ

日時 2017年10月15日(日)9:00~13:00

場所 花博記念公園鶴見緑地 特設コース

申込締切日 2017年9月15日(金)

HPIはこちらから ▶

問合せ 大阪YMCAチャリティーラン事務局

【TEL】06-6441-0894 【FAX】06-6445-0297

ユースリーダー安全支援金 ご協力をお願い

大阪YMCAでは、YMCA運動を支え発展させていく担い手であるユースボランティアリーダーの安全と研鑽のために、研修などに用いられる募金を実施しています。みなさまのご協力をお願いいたします。

【募金方法】 一口 1,000円

【募金期間】 7月1日(土)~8月31日(木)

【受付窓口】 各YMCA

大阪YMCA本部事務局(06-6441-0894)

大阪YMCA「安全の日」について

大阪YMCAでは、屋外での活動の機会が多くなる本格的な夏を迎えるにあたり、毎年7月18日を、大阪YMCA「安全の日」と定め、「生命」の大切さと自分自身の「安全」と他者の「安全」を考える機会として、「安全キャンペーン」を実施しています。

私たちは、日常生活の中で多くの危険なことに直面しながら、知らず知らずのうちに見過ごしたり、気づかなかつたりすることがあります。自分自身は気をつけていても、思わぬ災難、災害の当事者になることもあり、単に軽い怪我だけでなく、尊い生命までも失ってしまうことさえあります。

たった一つしかない自分の「生命」を自分自身で守っていくために、そしてYMCAが大切にしている価値(思いやり、誠実さ、尊敬心、責任感)にも関連し、自分自身と他者の「安全」を考えていくために、この「安全の日」を機会にもう一度、身の回りの安全について、ご家族やお友達と一緒に考えてみてください。

これから暑い夏を迎えますが、身体に気をつけ、健康で有意義な夏を過ごされますようお祈りいたします。

大阪YMCA早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAの様々な場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かちあう恵みの時としています。

■第291回 日時…2017年7月21日(金)7:30~8:30

証し…いわさか に き岩坂 二規さん
(関西学院大学教育学部准教授 / 公益財団法人大阪YMCA理事)

場所…大阪YMCA会館 10階 チャペル

■第292回 日時…2017年8月18日(金)7:30~8:30

証し…こぼやし なおき小林 直樹さん
(大阪YMCA国際専門学校高等課程 国際学科 学科長)

場所…大阪YMCA会館 10階 チャペル

問合せ 大阪YMCA 本部事務局 総務

【TEL】06-6441-0894 【E-mail】info@osakaymca.org

■会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2017年5月度報告・敬称略

【新規会員】

岡田 美奈子
奥村 千宗
廣田 康人

【継続会員】

生雲 文枝
石井 種男
石井 徳乃
石川 悟
石原 福造
梅谷 明子
瓜生 菊雄
惠美奈 博光
大川 寧々
大岸 弘子
大谷 勝彦

奥 美結希
河本 武久
木山 敦子
坂田 茂
柴田 一希
ト田 昭子
ト田 啓三
ト田 真一郎
鈴木 璋三
谷川 俊一
津田 誠
富賀 理恵
西村 和雄
西村 耕
則武 秀尚
長谷川 幸子
畠平 雅生

日野 多米子
富士水 英一
前田 孝志
松浦 孝次
松村 京香
松本 武彦
松本 三枝子
水野 善夫
水口 美里
南出 和余
三牧 勉
森井 隆生
森田 照美
矢野 優輔
山田 弥栄子
山本 直嗣

【新規賛助会員】

三菱商事株式会社
関西支社

【継続賛助会員】

コカ・コーラウエスト株式会社
株式会社西島製作所